

(別添)

社会医療法人大成会 福岡記念病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年9月 策定

【社会医療法人大成会 福岡記念病院の基本情報】

医療機関名：福岡記念病院

開設主体：社会医療法人

所在地：福岡県福岡市早良区西新一丁目1番35号

許可病床数：

（病床の種別）	一般病床	239床
（病床機能別）	急性期病床	215床
	高度急性期病床	24床

稼働病床数：

（病床の種別）	一般病床	239床
（病床機能別）	急性期病床	215床
	高度急性期病床	24床

診療科目：救急科、外科、脳神経外科、整形外科、消化器外科、大腸・肛門外科、呼吸器外科、形成外科、内科、循環器内科、消化器内科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、感染症内科、小児科、泌尿器科、産科、婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、精神科、リウマチ科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、臨床検査科、心臓血管外科、呼吸器内科、血管外科、肝臓内科、肝臓外科、脊椎・脊髄外科

職員数：平成29年8月1日現在 672名

・ 医師	常勤：59名	非常勤：80名
・ 看護職員	常勤：280名	非常勤：7名
・ 専門職	常勤：136名	非常勤：2名
・ 事務職員	常勤：81名	
・ その他	常勤：20名	非常勤：7名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

- ・総人口のピークは平成32（2020）年ごろ、一方で65歳以上人口は増加を続けるため、今後、速いスピードで高齢化が進展する。
- ・人口10万人対の一般・療養病床の数、及び医師の数は全国平均を上回り、医療資源は豊富である。
- ・自己完結率は救急で93.2%、くも膜下出血で89.9%、急性心筋梗塞で91.7%、悪性腫瘍で94.2%、小児の入院体制で94.4%と非常に高く、医療提供体制は全般的に充実した状況である。
- ・救急医療、脳血管疾患、虚血性心疾患、悪性腫瘍、糖尿病、精神疾患、小児・周産期に関しては、診療機能、提供量、アクセシビリティともに良好であり、現在の提供体制は充実している。

② 構想区域の課題

- ・高度医療機関が集積し、高度急性期、急性期について広域的に医療提供を支える役割を果たしつつ、高齢化の進展に伴い増加する慢性期・在宅医療等の医療需要に適切に対応することが必要である。
- ・必要病床数の推計値と現状の病床数との比較では回復期が3,654床不足する見込である。
- ・救急医療について提供体制が充実していることは間違いないが、各救急医療機関の機能をいかに維持していくか、メディカルコントロールの充実、小児周産期疾患、精神疾患等に係る救急体制など課題がある。
- ・くも膜下出血に関しては糸島市の西部でやや時間を要している。
- ・救急医療、脳血管疾患、虚血性心疾患ともに、提供体制が充実していることは間違いないが、医療の質についてももしっかりコントロールできているか評価をしていくことが必要である。
- ・悪性腫瘍の連携パスの利用が全国平均を下回っており、がん診療の連携体制の一層の充実を図っていく必要がある。
- ・精神科救急に関しては、中々搬送先が決まらず搬送時間が長くなる傾向が見受けられるため、改善を考えていく必要がある。
- ・身体疾患と認知症を併せ持つ患者の治療を行うための精神科以外の医療機関と精神科病院との連携を強化していく必要がある。
- ・高齢者の誤嚥性肺炎、転倒に伴う骨折の増加が想定されるところであり、予防を含めた対応策について検討していく必要がある。
- ・今後増加が見込まれる認知症高齢者について、適切に対応できる体制を構築していくことが必要である。

③ 自施設の現状

●理念・基本方針

(1) 理念

“地域住民が求める安全で信頼される医療を行う”

(2) 基本方針

患者様中心の医療

患者様の人格・権利を尊重します

診療内容を説明し、納得された医療を行います

適切な医療水準

専門知識・技術の習得に努め、診療の質を高めます

根拠・医の倫理に基づいたチーム医療を行います

地域との積極的な連携

医療連携を図り、地域の健康増進に寄与します

地域救急医療の中心的役割を担います

●診療実績

(1) 届出入院基本料等

- ・一般病棟入院基本料 7対1入院基本料 215床
- ・特定入院料 小児入院医療管理料5 215床
- ・特定入院料 特定集中治療室管理料3 6床
- ・特定入院料 ハイケアユニット入院医療管理料1 12床
- ・特定入院料 ハイケアユニット入院医療管理料2 6床
- ・重症者療養環境特別加算 10床
- ・開放型病院共同指導料
- ・救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
- ・超急性期脳卒中加算
- ・急性期看護補助体制加算50対1
- ・妊産婦緊急搬送入院加算
- ・ハイリスク妊娠管理加算
- ・短期滞在手術基本料2
- ・がん治療連携指導料
- ・院内トリアージ実施料
- ・処置・手術の時間外・休日・深夜加算1
- ・精神疾患診療体制加算
- ・地域連携診療計画加算

(2) 平均在院日数 平成27年度：14.0日 平成28年度：14.7日

(3) 病床稼働率 平成27年度：89.7% 平成28年度：93.5%

(4) 救急車受入件数 平成27年度：5,409件 平成28年度：5,172件

うち入院患者数 平成27年度：2,634名 平成28年度：2,586名

中等症・重症割合平成27年度：53.4% 平成28年度：56.6%

(5) 共同利用実績 平成27年度：89.6% 平成28年度93.5%

(6) 紹介率 平成27年度：55.8% 平成28年度：74.2%

逆紹介率 平成27年度：96.8% 平成28年度：88.6%

(7) 手術件数 平成27年度：1,574件 平成28年度：1,683件

●職員数

平成29年8月1日現在 672名

・ 医師	常勤：59名	非常勤：80名
・ 看護職員	常勤：280名	非常勤：7名
・ 専門職	常勤：136名	非常勤：2名
・ 事務職員	常勤：81名	
・ その他	常勤：20名	非常勤：7名

●特徴

- ・「救急告示病院」「開放型病院」「地域医療支援病院」「福岡県災害拠点病院」「へき地医療拠点病院」であり、病床は4機能のうち「高度急性期」「急性期病床」をそれぞれ有しており、救急車の受入件数も毎年5,000台を超えている。

また、当院から5km圏内では「救急科」を標榜している病院は当院含めて4件と数少ない現状である。（別添「ふくおか医療情報ネット」より）

●政策医療

- ・5疾病-全てに対応している
- ・5事業-「社会医療法人」であり、救急医療、災害医療、へき地医療に対応している。
また、周産期医療、小児医療にも取り組んでおり、地域の開業医からの紹介も受け入れている。周産期センターについては、福岡大学病院と連携している。

④ 自施設の課題

- ・先に述べてあるように当院5km圏内で「救急科」を標榜している病院は数少なく、今後更に増えてくる重症度の高い高齢者に対応する為には、今の一般急性期病床の病床数、高度急性期病床の病床数では数が足りなくなる可能性もあるため増床できないか検討が必要である。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・地域救急医療の中心的役割を担うべく急性期医療の提供体制は維持していく。
 今後は更に一次救急から三次救急まであらゆる疾患の患者に対応できる高度急性期医療を提供できる病院を目指していく。
- ・また、今後増えていく「がん」の患者さんについてリニアック・ガンマナイフの放射線治療機器を駆使して「がん診療連携拠点病院」となれるよう目指していく。

② 今後持つべき病床機能

- ・現在、高度急性期病床(ICU・CCU6床、HCU18床)については常に満床状態であり、更に開設当初に比して患者さんの重症度も高くなってきているため、一部の病棟について「一般急性期病床」から「高度急性期病床」への病床機能転換を検討する。

③ その他見直すべき点

- ・病床利用率、救急車搬入件数、他院からの紹介患者数が、近年増加傾向であるため、現在の239床では度々満床となることが多く増床を検討していく必要がある。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

＜今後の方針＞

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	24床	→	24床
急性期	215床		215床
回復期			
慢性期			
(合計)	239床		239床

＜病床機能の変更に関する具体的な方針及び整備計画＞

＜年次スケジュール＞

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○病棟別稼働率・救急患者受入状況・看護必要度・平均在院日数などを過去数年分と現在の状況を比較し、管理運営会議の中で必要性を協議する。	○当院の今後の病床のあり方を決定する。「社会医療法人大成会 福岡記念病院 公的医療機関等2025プラン」を策定する。	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 2px solid blue; border-right: 2px solid blue; height: 100px; margin-right: 10px; text-align: center;"> 2年間程度で 集中的な検討を促進 </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: orange; width: 100px; height: 100px; margin-bottom: 10px;"></div> <div style="background-color: green; width: 100px; height: 100px;"></div> </div> </div>
2018年度	○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討していく。	○地域医療構想調整会議において当院の病床のあり方に関する合意を得る。	
2019～2020年度	○具体的な病床整備計画を会議の中で策定していく。 ○工事施行業者を選定し、見積り・発注を依頼する。	○2019年度中に病床整備計画を策定する。 ○2020年度中に着工する。	
2021～2023年度	○看護師配置2：1および専従医師の配置が必要となるため増員を検討していく。 ○稼働までにスタッフの育成・教育についても同時にすすめる。	○2023年度末までに、医療機器を整備し、診病室を稼働させる。	

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

＜今後の方針＞

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持	救急科、内科、外科、整形外科、脳神経外科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、感染症内科、消化器内科、消化器外科、肝臓内科、肝臓外科、循環器内科、心臓血管外科、血管外科、脊椎・脊髄外科、大腸・肛門外科、呼吸器外科、呼吸器内科、泌尿器科、小児科、精神科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、形成外科、放射線科、リウマチ科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、歯科、歯科口腔外科	→	救急科、内科、外科、整形外科、脳神経外科、脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、感染症内科、消化器内科、消化器外科、肝臓内科、肝臓外科、循環器内科、心臓血管外科、血管外科、脊椎・脊髄外科、大腸・肛門外科、呼吸器外科、呼吸器内科、泌尿器科、小児科、精神科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、形成外科、放射線科、リウマチ科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、歯科、歯科口腔外科
新設		→	放射線治療科
廃止		→	
変更・統合		→	

〈診療科見直しに関する具体的な方針及び計画〉

・今後、国民の2人に1人が癌になり、3人に1人が癌で亡くなると予想されている中で、癌の患者さんに対応すべく「放射線治療科」を新設する。

③ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率：95%
- ・ 手術件数：2,000件/年
- ・ 紹介率：80%
- ・ 逆紹介率：95%
- ・ 救急車受入件数：6,000件/年
- ・ 平均在院日数 12日
- ・ 放射線治療件数 4,000件/年
- ・ 化学療法件数 1,000件/年
- ・ 悪性腫瘍手術 400件/年

- ・ 腹腔鏡手術 100件/年
- ・ 分娩 100件/年

経営に関する項目

- ・ 人件費率：48%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合：1%

その他：

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

（自由記載）